

■ばれいしょの殺虫剤・茎葉枯凋剤

区分	毒性	系統名	薬 剤 名	希釈倍率	水100ℓあたり 使用薬量	
全面土混和 または作条土 混和	植付前	—	有機リン	ダイアジノン粒剤5	4~6kg/10a	
作条散布	植付時	—	有機リン	ジェイエース粒剤	3~6kg/10a	
		—	有機リン	オルトラン粒剤	3~6kg/10a	
作条混和	—	ネオニコチノイド*	アクタラ粒剤5	2~6kg/10a		
茎葉散布	アブラムシ類 6月上旬 ~8月下旬	劇	ピレスロイド*	ゲットアウトWDG	2,000~3,000倍	33~50g
		—	有機リン	オルトラン水和剤	1,000~1,500倍	66~100g
		—	有機リン	ジェイエース水溶剤	1,000~2,000倍	50~100g
		劇	有機リン・ ピレスロイド*	ベジホン乳剤	1,000~2,000倍	50~100ml
		劇	ネオニコチノイド*	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000~15,000倍	6.6~20g
		劇	ネオニコチノイド*	モスピランSL液剤	2,000~4,000倍	25ml~50ml
					2,000~6,000倍	16~50ml
		—	ネオニコチノイド*	ダントツEXフロアブル	5,000倍	20ml
		—	スルホキシミン	ビレスコ顆粒水和剤	5,000~10,000倍	10~20g
		—	ピロペン	セフィーナDC	2,000~4,000倍	25~50ml
—	ピリジニアゾメチン誘 導体	コルト顆粒水和剤	4,000~8,000倍	12.5~25g		
—	フロニカト*	ウララDF	2,000~4,000倍	25~50g		
茎葉枯凋剤	—	—	デシカン乳剤	—	250~450ml/10a	

使用時期 (収穫前日数)	回数 以内	無人航空 機散布	適用病害虫名						防除上の注意事項
			アブラムシ類	ハリガネムシ類	ケラ類	テントウムシ類※1	ナストビハムシ	茎葉枯凋	
植付前	1				●				・ネキリムシにも登録あり。
植付時	1		●						・アセフェートを含む農薬の使用回数は3回以内 (植付時の処理は1回以内、植付後は2回以内)
植付時	1		●						
植付時	1		●						
7日前	4		●					●	※1:テントウムシ類 オルトラン水和剤:登録はテントウムシダマシ幼虫 ジェイエース水溶剤:登録はオオニジュウヤホシテントウ モスピランSL液剤:登録はテントウムシダマシ類 アドマイヤー顆粒水和剤:登録はオオニジュウヤホシテントウ 他ダントツ水溶剤:登録はテントウムシダマシ類で登録あり ●アブラムシ類のうちワタアブラムシに有効な薬剤 ・アドマイヤー ・ダントツ ・ウララ ・コルト ・モベント ・モスピラン ・ビレスコ ●ヨトウムシに登録がある薬剤 ・オルトラン水和剤(1000倍) ・ジェイエース水溶剤(1000倍)
30日前	2		●			1,000 ●			
30日前	2		●			1,000 ●			
30日前	2		●				1,000 ●		
14日前	2	○	●					●	
7日前	3	○					●	●	
7日前	3		●						
7日前	3	○	●						
前日	2		●						
前日	3	○	●						
7日前	2		●						・吸汁阻止効果発現は早いですが、アブラムシ致死までに時間を有する。
茎葉黄変期 但し収穫3日前	2							●	・散布直後に降雨が予想される場合や、土壌が極端に乾燥している時の使用は避ける。